

(様式1)



山口市

## 報道資料

令和2年10月7日

1 件 名	山口市歴史民俗資料館「雲谷庵展」関連企画 「雲谷庵で歌会を」短歌募集 入賞者の発表について
2 期 間	<作品展示期間> ①入賞者 令和2年10月10日(土)～12月6日(日) 山口市歴史民俗資料館「雲谷庵展」内 ②全応募者 令和2年10月24日(土)～12月6日(日) 山口市指定史跡「雲谷庵跡」建物内
3 内 容	山口市歴史民俗資料館で開催する「雲谷庵展」(令和2年10月10日～12月6日)に合わせて募集した短歌について、入賞者が決まりましたのでお知らせします。(敬称略) <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"><p>&lt;大賞&gt; 老二人柿の若木を植ゑ終へてしばらく聞きぬ谷川の音 石川 恵美子(山口市在住)</p><p>■大賞選評(選者:島田幸典) 柿の木を植えた後の休憩のひとつときである。四句まで述べたところでいったん切れを置くことで、結句への注意が促され「音」の印象が引き立つ。谷川の流れに向かい、水音に耳を傾ける二人の後ろ姿が見える。</p><p>■受賞者コメント 思いがけずこのような賞をいただき、ありがとうございます。 これからも精進してまいりたいと思います。</p></div> <p>全ての入賞作品及び全体の講評については、別紙のとおりです。 入賞作品は、「雲谷庵展」の中で展示します。表彰式は執り行いません。</p> <p>【応募状況】(応募条件を満たした審査対象作品のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・応募作品総数 542首 ※1人2首まで応募可とした</li><li>・応募者数 300人</li><li>居住地 34都道府県(市内71人、県内他市町110人、県外119人)</li><li>年齢層 9歳～93歳(平均年齢58.8歳)</li></ul>
4 問い合わせ	山口市教育委員会文化財保護課文化財保護担当 (担当:丸本) TEL 083-920-4111

「雲谷庵で歌会を」入賞作品（敬称略） ※題 「雲」「谷」「庵」のうち最低一字が詠み込まれていること

大賞 老二人柿の若木を植ゑ終へてしばらく聞きぬ谷川の音 (山口市)

優秀賞 さよならと夕焼け雲がつぶやいて次第に闇の中に入りゆく 弘兼安雄 (岩国市)

優秀賞 きつちりと山折り谷折りたたまれた地元紙につく母の白髪 やーくん (神奈川県)

優秀賞 戸口には庵主が書いた留守の札茄子と胡瓜を置いて立ち去る 澄海 (愛知県)

佳作 もみじ谷の青葉のあわいに薄雲がモザイクのごとひたと嵌まりぬ 須山佳代子 (岩国市)

佳作 軽四のライトの照らす光る眼のうり坊五頭暗谷に消ゆ 山本明 (千葉県)

佳作 雪舟庭の野点の傘の影奪い雲のひとひら静かに滑る 永井すず恵 (光市)

佳作 春の野に吾子と浮雲指差してイルカと言えばクジラと返す 熊本芳郎 (周南市)

佳作 席替えしいつものように窓を見る廊下側の席雲まで遠い 宮下真央 (東京都)

佳作 一身に愁いを集めし蟀谷こめかみに手をやる母の瞳は見えず 丘 光生 (京都府)

【講評】

題が設けられているにもかかわらず、独自の把握や自由な発想によって、作者の目や心の動きをいきいきと感じさせる歌に出会うことができた。とくに表彰の対象とした十首は、家族とのやりとりや印象的な日常の一コマを鮮やかに描いている。

身近な素材であるせいか、三つの字のうち「雲」を選んだ歌が比較的多かった。「谷」「庵」も含め、言葉に染みついた特定のイメージに囚とらわれないうにするには、自己の経験や実感をよく見詰め、それに即して丁寧な詠うのが基本である。短歌という詩型はその時見たもの、感じたものを簡潔な言葉で深く細やかに捉え、留める助けとなる。

このたびの企画が歌を作る、また読む喜びに触れる機会になればと思う。(選者 島田幸典)